1. 授業の概要(ねらい)

本講義では文化人類学の形成期と文化人類学の展開と現状について代表的な研究者とそのキーコンセプトを紹介する。このコンセプトは文化人類学だけでなく社会科学や政治哲学などにおける議論の背景となる。

2. 授業の到達目標

- ・文化人類学や社会科学、政治哲学における著名な文献の内容を説明することができる
- ・カルチュラル・セオリーの論争を背景とするキーコンセプトを理解できる
- ・テレビや新聞で取り上げられるような議論がよく理解できるようになり、自分なりの理論構築ができる

3. 成績評価の方法および基準

- ・平常点(30%)講義への積極的参加と、リアクションペーパーへの回答
- ・試験(70%)正当な理由なく試験を受験しなかった場合、0点の評価となるので注意すること

4. 教科書・参考文献

教科書

岸上伸哲 『はじめて学ぶ文化人類学—人物・古典・名著からの誘い』 ミネルヴァ書房 2018.

参考文献

授業時に適宜紹介する

5. 準備学修の内容

以下のような準備学習課題を課する。授業は各自の予習をもとに進めるので、やっていないと授業での活動を深めることが難しくなる。

- ・講義内で指示した文献を読む
- ・講義の出席前に前回の授業のノートを読み返し、復習する

6. その他履修上の注意事項

- ・受講希望者は必ず初回の授業に出席する
- ・学生証を所持する
- ・欠席や遅刻は止むを得ない場合は例外とし、定時には着席する
- ・講義計画は適宜変更する可能性がある
- ・合理的配慮などの特別な理由がない場合、パソコンの持ち込みは禁止する

7. 授業内容

【第1回】	・オリエンテーション(自己紹介、授業目的、授業方法、成績評価の説明について)
	・講義ノートの取り方についての説明
【第2回】	・講義:「象徴人類学 I (Victor W. Turner)」
	・リアクションペーパーの作成についての説明
【第3回】	・講義:「象徴人類学 II (David M. Schneider)」
	・リアクションペーパーの発表①とその討論(グループワーク)
【第4回】	・講義:「解釈人類学 (Clifford Geertz)」
	・リアクションペーパーの発表②とその討論(グループワーク)
【第5回】	・講義:「象徴論 I (Mary Douglas)」
	・リアクションペーパーの発表③とその討論(グループワーク)
【第6回】	・講義:「構造主義人類学 (Claude Lévi-Strauss)」
	・リアクションペーパーの発表④とその討論(グループワーク)
【第7回】	・講義:「実践理論 (Pierre Bourdieu)」
	・リアクションペーパーの発表⑤とその討論(グループワーク)
【第8回】	・講義:「象徴論 II (Dan Sperber)」
	・リアクションペーパーの発表⑥とその討論(グループワーク)
【第9回】	・講義:「批判・自省的人类学 / ポストコロナル人類学 (James Clifford)」
	・リアクションペーパーの発表⑦とその討論(グループワーク)
【第10回】	・講義:「ジェンダー論 (Judith Butler)」
	・リアクションペーパーの発表⑧とその討論(グループワーク)
【第11回】	・講義:「グローバリゼーション論 (Arjun Appadurai)」
	・リアクションペーパーの発表⑨とその討論(グループワーク)
【第12回】	・講義:「存在論的人类学 I (Marilyn Strathern)」
	・リアクションペーパーの発表⑩とその討論(グループワーク)
【第13回】	・講義:「存在論的人类学 II (Tim Ingold)」
	・リアクションペーパーの発表⑪とその討論(グループワーク)
【第14回】	・講義:「存在論的人类学 III (Annemarie Mol)」
	・リアクションペーパーの発表⑫とその討論(グループワーク)
【第15回】	・総括と試験